

令和 2 年度

**我(和)がまちづくり
(いしかわ地域の魅力創造まちづくり事業)**

活動報告書

金澤町家アーティスト・イン・レジデンス



金澤町家学生会議

1. 事業概要

- 概要 金澤町家でアーティスト2名が“公開制作”を行い、周辺のリサーチや成果展などを通じて、地域の方々に活動の様子や町家について知ってもらうとともに、空き家だった町家を活用し、人々の交流の場をつくる。
- 開催日 令和2年9月1日（火）～ 9月21日（月）
- 会場 空き町家（金沢市瓢箪町12-8）、kanazawa 旅音（金沢市小橋町2-17）
- 主催 金澤町家学生会議
- 参加者 アーティスト： 2名 金沢美術工芸大学大学院修了 上岡 安里 氏
金沢美術工芸大学3年 岡田 真由美 氏
関係者： 9名
来訪者（計）： 54名

2. 活動目的

金澤町家学生会議は、2018年に発足し、金沢近郊の複数の学校から学生が参加し、減少傾向にある金澤町家を若者目線の魅力発信によって存続させることを目的に活動している。

今年度は空き家となっていた町家を活用して、アーティスト・イン・レジデンスを企画し、レジデントと地域の方々が交流する機会を設け、町家×アートの魅力を発信することを目的に活動を展開した。

3. 開催記録

日程	内容
8月21日（金）	 <p>かなまちAIR開始前。 お借りした町家の掃除と簡単な補修を行いました。</p>

日程	内容
8月29日(土)	   <p data-bbox="507 618 1110 649">この日は協賛いただいた企業様にご挨拶に伺いました。</p>
8月31日(月)	 <p data-bbox="507 1146 983 1178">新聞にイベントを掲載していただきました。</p>
9月2日(水)	  <p data-bbox="750 1214 1283 1348">アーティストが常駐しているわけではないので時には行き違いも。玄関の扉に活動時間をはり、インスタグラムのストーリーでもシェアしました。</p> <p data-bbox="507 1563 794 1594">この日は大掃除をしました。</p>
9月3日(木)	   <p data-bbox="507 1935 1369 2007">作業を開始して3日目。1日中手拭いを作っていました。手拭いは植物や野菜、お茶を使って染めたので、優しい色合いに仕上がりました。</p>

日程	内容
9月4日（金）	 <p data-bbox="512 622 970 651">この日は10:00から作業を開始しました。</p>
9月5日（土）	   <p data-bbox="512 1043 1203 1072">9:00から作業を開始して、瓢箪町のリサーチをしました。</p>
9月6日（日）	   <p data-bbox="520 1469 1098 1498">12:00から作業を開始して、手拭いを配布しました。</p>
9月7日（月）	 <p data-bbox="512 1917 1187 1946">この日はホタルイカミュージアムにリサーチに行きました。</p>

日程	内容
9月9日(水)	<div data-bbox="475 309 799 640" data-label="Text"> <p>海水をくみに、 日本海に行くといい。 そのあと、魚屋さんで イカを買ってきます。</p> </div> <div data-bbox="847 400 1169 640" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="507 663 884 696">海でイカは光りませんでした。</p>
9月10日(木)	<div data-bbox="475 741 676 1095" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="778 748 976 1095" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="488 1120 1015 1153">15:00まで制作を開始して、実験をしました。</p>
9月11日(金)	<div data-bbox="480 1209 770 1498" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="892 1209 1107 1498" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="496 1512 715 1545">海ほたるは光った。</p>
9月12日(土)	<div data-bbox="480 1715 743 1912" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="799 1619 1023 1912" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1086 1628 1313 1924" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="507 1935 836 1968">そうめん屋さんに行きました。</p>

日程	内容
9月13日(日)	 <p data-bbox="501 658 807 689">そうめんの実験をしました。</p>
9月17日(木)	 <p data-bbox="507 1066 1104 1097">この日から団体メンバーでイスづくりを開始しました。</p>
9月18日(金)	 <p data-bbox="504 1509 1085 1541">イスづくり2日目の様子です。夜まで作業しました。</p>
9月19日(土)	 <p data-bbox="517 1930 1114 1962">イスづくり最終日の様子です。素敵なイスができました。</p>

日程	内容
9月20日(日)	<div data-bbox="485 315 796 627" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="491 645 1026 678" data-label="Text"> <p>近所や小学校に展示の案内をしに行きました。</p> </div> <div data-bbox="1054 315 1331 714" data-label="Image"> </div>
9月21日(月)	<div data-bbox="480 786 866 1041" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="480 1077 866 1332" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="922 786 1281 1406" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="480 1413 1182 1541" data-label="Text"> <p>最終日は、座談会と作品展示を企画しました。 作品は、電気もガスも通っていない町家を光らせることで、 人々の記憶に残すというものでした。</p> </div>

4. 事業の成果

21日の期間中、地域の方やインスタグラムの投稿を見てお越しいただいた方など様々な人たちに町家を見てもらうことができた。また、アーティストも滞在やりサーチを通して町家や金沢に対する考えや感じ方に変化があったといえる。アーティストと意見を交わすことで団体にも刺激となった。

最終日にはライトアップをし、長らく空き家であった町家が再びまちの一員として戻る様子が印象的であった。

5. 参加者の声（感想・意見など）

（アーティスト）

- ・この場所があること、町家がここにあることを昼間は認識できるが、夜になると見えなくなる。暗くなった時に光れば、それが生命活動としての「在る」ということになるんじゃないかと考え、夜、町家を光らせようと思った。それで夜、海に行って死んだイカを光らせるという実験をした。
- ・最初は「家を鳴らす」とか「家を飛ばしたい」とかいろいろなプランがあって、その中で「家を光らせたい」ということになり、光っていると生きてると認識する、動いていたら生きている、本当は生きていなくても生きていると思う、この光は嘘だけど、光っているということが大事だと思った。

（座談会参加者）

- ・空き家になった物件で輪を作って話をしている風景は印象深い。
- ・学生が主体となって取り組んでいることに驚いた。
- ・企画側とアーティストのバトルがあって、すごくいいなと思った。価値観の違う者同士が町家という場所を介してぶつかり合うというのが、副次的だが大事なことだと思った。
- ・町家を大事にしたいと思う人もいれば、そうじゃない人もいる。アーティストは自由な人だと思うので、町家に入り、化学反応が起きるとするのが面白いと感じた。
- ・ここが浅野川水害で水に浸かることなく、家具が残っていたり、畳が残っていたりすれば違ったアプローチもあったかもしれない。でも何も無い、全くのがらんだ空間で

何が出来るかと考えたときに、造り手にとってはすごく難しい活動だったんじゃないかと思う。だから最終的に「建物を光らせる」というのは、かなり良い回答じゃないかと思う。何もしなければ起こらなかったことが、これだけこの場所で起きたというのは、とても良いことだったのではないか。

(団体メンバー)

- ・町家についてもっと知る活動という以上にアートについて知れたことが嬉しいことだった。自分の知らない世界を知れた。

6. 課題

各種スケジュールにかなり無理があった。当初の立案時より変更になった点が多く、なんとか開催を迎えた一方で、変更箇所が多くついていけない面や、要点を見失っていた印象がある。

また、協賛企業を募るなど、多くの方とともに作り上げていくことの難しさは今までの企画とは大きく異なる点であり、打ち合わせなど課題は多かった。

7. 今後の活動予定

少人数の団体でもうまく運営できる企画にすることを意識し、町家とつながる人々の増加を目的とした、学生目線の企画を立案、実行していく。

8. おわりに

今回は立案から1年以上の期間をかけて行ったため、達成感は今までにないほど大きなものであった。リノベーションなどの使われ方が主流となっている現状の町家活用に対して、異なるアプローチができたのではないだろうか。期間と関わる人が増えた分、課題は多くスケジュール管理など非常に難しいことを痛感した。長期的な企画を行う際は、様々なシミュレーションを行う必要がある。